

5日間ありがとうございました！

2021年10月25日

子どもたちに核のゴミのない寿都を！ 町民の会

10月21日（木）に告示された寿都町長選挙、寿都町議会議員補欠選挙の運動期間が25日（月）をもって終了します。

最後は、越前谷由樹（えちぜんやよしき）候補と吉野卓寿（よしのたくとし）候補が、事務所前に二人揃って、挨拶しました。

越前谷候補の挨拶「10月17日に70歳になりました。まさか70を迎えて選挙をするとは思ってもみませんでした。4月から約半年がんばってまいりました。10月まで持つかなと思っていましたが、畑仕事で鍛えたこの体で、いま、ここに立つことができました。ここまで来られたのは、核のゴミをこの寿都に持てこない、この一念であります。『核のゴミを持ってくる』は言っていない。そんなことでないんです。『核のゴミを持てこない』と言わないと、この寿都の未来がどうなるか分からないんです。町民主役、町民本位の行政がいま行われておりません。町政を我々の手に取り戻さなくてはなりません。人の心を取り戻さなくてはいけない。必死にがんばってまいりました。選挙戦のなかで、私の政策は文献調査を撤回しないと始まらないんだと何度も言ってきました。寿都の自然は、いま見えるものだけでなく、心のなかにもあるのです。我々だけの問題ではなく、出身者、近隣町村、北海道、全国につらなっている方々の願いでもあります。選挙結果はどうなるか分かりませんが、私の胸には、おおきなうねりを感じました。おじいちゃん、おばあちゃん、子どもたち、握る手の感触が強いのです。がんばってくれという一心の願いがこめられていたと思います。人事をつくして天命を待つ。いや、町民みなさんの良識を待ちます。それしかないと思っています。私を支えてくれた後援会、町民の会、リコールの会、町民の皆さん、ありがとうございました」

吉野候補の挨拶「はじめての選挙で分からないことばかりで、皆さんに支えられて、ここまでやってこれました。くじけそうになったときも、玄関から、足を引っ張るように出てきたおじいちゃん、おばあちゃんが僕の手を握って、『これからの寿都を変えるのは、お前みたいな若いやつだ』。その言葉を胸にがんばってきました。さっき、ここに帰ってきて、思わず緊張の糸がほどけて、涙を流してしまいました。いちど涙を流してしまったので、スマートな議員にはなれないと思うので、泥臭い議員になって、精いっぱいがんばります。当選後には、越前谷町長と二人三脚でがんばっていきますので、どうかよろしく願いいたします」

明日26日（火）は、町長に「えちぜんやよしき」、町議に「よしのたくとし」の名前を、どうかよろしくお願いいたします！



両候補の固い握手！